

令和元・2年度 千代田区教育委員会研究協力校



夢と志をもち、

ともに未来を切り拓く児童の育成

～教育活動全体を通して、「学び合い」を楽しむ児童を育てる～



令和2年11月27日(金)



千代田区立和泉小学校

あいさつ

千代田区教育委員会教育長職務代理者 金丸 精孝

千代田区立和泉小学校には、令和元年・令和2年度、千代田区教育委員会研究協力校として、研究主題を「夢と志をもち、ともに未来を切り拓く児童の育成～教育活動全体を通して、『学び合い』を楽しむ児童を育てる～」と設定し、研究及び実践に熱心にお取り組みいただきました。

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が人間の予測を超えて急激に進展してきています。人工知能が人に替わる労働力となり、今後、人工知能を利用したロボットなどが不足する労働力を補完する時代になると言われています。社会や産業の構造が変化し移行していく中で、これまでの在り方を前提とした生き方を超えて、様々な情報や出来事を受け止め、主体的に判断しながら、自分を社会の中でどのように位置付け、社会をどう描くかを考え、他者と共に生き課題を解決していく力の育成が求められています。

その意味からも、本校が取り組んできた主体的で協働的な「学び合い」の授業やカリキュラム・マネジメントを活かした授業は、まさに今の社会が求めているものであり、大変意義深いものであると確信しております。

最後になりましたが、村田 悦子 校長をはじめ、本校教職員の方々の御協力と研究に対する真摯な姿勢に深く敬意を表すとともに、本校の研究に関して御指導・御助言を賜りました 学習院大学文学部教育学科 久保田 福美 先生に心より御礼を申し上げます。

はじめに

千代田区立和泉小学校長 村田 悦子

本校は、江戸時代より歴史のある神田和泉町に位置しており、神田囃子や神田雷神太鼓など地域の方々の協力をいただきながら日本の伝統文化を大切にした特色ある教育活動を行っています。また、漫画やアニメに代表される新しい文化の世界の発信地である秋葉原が最寄りということで、子どもたちはいつも新しい文化に触れており、このような様々な文化に触れられる環境が子どもたちの好奇心旺盛で前向きな気質を育てています。

令和2年度は、このような子どもたちの実態と今後の予測困難な時代においても他者と協働して課題解決をしたり、様々な情報を再構成して新しい価値を創造したりすることができる児童の育成が大切であると考え、これまでの和泉小学校が培った「協働的な学び」をベースにして「学び合い」に重点を置き研究を進めて参りました。まだまだ研究の途中ではありますが、児童は双方向の受信・発信を通して自分の考えを自信をもって発信するようになり、また他者の考えを取り入れたり、違う考えを伝えたり、新しい考えをともにつくったりして「学び合い」を楽しめるようになりました。

さらに、本研究を進めていく中で、教職員同士の「学び合い」の姿も見られるようになりました。研究協議会での学び合いはもちろんのこと、日常の学び合いの授業を互いに見合ったり、学年間での対話が増えたりしました。学び合う子どもを育てることが、学び合う教職員集団をつくり、教職員が学び合うことで、さらに学び合う子どもを育てる・・・という好循環が生まれたのは嬉しいことです。

結びにあたり、このような学びの機会を与えてくださいました千代田区教育委員会、本校前校長 渡辺 裕之 先生、本校の研究に関して御指導・御助言を賜りました 学習院大学文学部教育学科 久保田 福美 先生、本校の研究にご協力をいただいた全ての皆様に心より感謝を申し上げます。

研究構想図

【研究主題】 夢と志をもち、ともに未来を切り拓く児童の育成
～教育活動全体を通して、「学び合い」を楽しむ児童を育てる～

【学校の教育目標】

- 人にやさしく →やさしい子
自分につよく →自分で考える子
・がんばる子
明るく 元気な →けんこうな子
和泉の子 →郷土を愛する和泉っ子
全ての児童が笑顔になる学び合いの学校
○自己肯定感が高い子
○自分の考えをもち、学び合う子
○違いを認め合い、他者を尊重する子

【世の中の動き】

加速度的に変化する予測困難な社会
人工知能の普及

【国の願い（学習指導要領）】

主体的、対話的で深い学び
学びに向かう人間性の育成

【児童の実態】

- ・自分の考えを書いたりまとめたりすることに意欲的である。
- ・自分の考えを発信する力に課題がある。

【教師の願い】

- ・授業改善の取組の活性化を望んでいる。
- ・新学習指導要領の「見方・考え方」を意識した授業を当たり前に行えるようにする。
- ・自分の考えを「伝えたい」、友達のことを「聞きたい」意欲をもって学習に臨む児童を育てたい。

【東京都教育員会の基本方針】

基本方針2「豊かな個性」と「創造力」の伸長
グローバル化と情報技術革命が進む東京にあって、国際社会に生き社会の変化に対応できるよう、子どもたち一人一人の思考力、判断力、表現力などの資質・能力を育成することが求められる。そのために、基礎的な学力の向上を図り、子どもたちの個性と創造力を伸ばす教育を重視するとともに、国際社会に生きる日本人を育成する教育を推進する。

【研究の仮説】

児童が友達との学び合いの中で「伝えたい」「聞きたい」と思える手だてを講じ、教育活動全体を通して児童の発信・受信力を高め、相手とともに学ぶことの意義を知ること、他と関わりながら主体的に生きようとする気持ちを育むことができるだろう。

【目指す児童像】

- 自分の考えを、思いを込めて伝えられる児童
- 友達の考えに関心をもって聞ける児童
- 発信したり受信したりしたことから自分の考えを再構築できる児童

【低学年】

学習したことをもとに「もっと知りたい、学びたい」と探究する児童

【中学年】

自分の考えをもち、友達とのやりとりを楽しみながら学びをつなぐ児童

【高学年】

友達との関わりを通して、自分の考えを深めることに喜びを実感できる児童

【研究の視点】

柔軟な教育課程 効果的な地域教材の活用 学校図書との連携

【日常の取組】

・今日のわくわくタイム ・校長先生のお話カード ・楽しくトークタイム ・聞く、話すのやくそくの掲示

【低学年分科会】手だて

- ①読書環境の整備
- ②友達との交流活動を取り入れる
- ③より探究心を刺激する場の設定

【中学年分科会】手だて

- ①教科横断的な学習
- ②ゴールを見据えた活動の工夫
- ③受信、発信の基礎を養う

【高学年分科会】手だて

- ①主体性を意識した学習活動
- ②必然性に迫ったゴールの設定
- ③受信、発信活動の工夫

【専科分科会】手だて

- ①地域教材の活用
- ②授業感想の活用
- ③発言をつなぐ問い返し

研究のデザイン

ともに未来を切り拓く力

柔軟な教育課程

地域教材の活用

相手に伝えて
みたい。

他の人はどう考えて
いるのかな。聞いて
みたい。

受信・発信のスパイラル

その考え、いいね。
次はそのやり方で
やってみよう。

受信…相手が話していることや
書いたものから相手の思
いや考えを受け取る活動
発信…自分の思いや考えを相
手に話したり書いたりし
て伝える活動

効果的な掲示

教育活動全般

常時活動

学校図書との連携

土台

[児童]

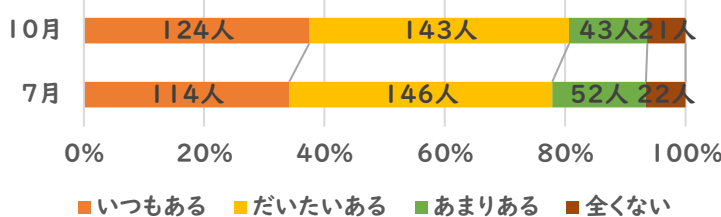
- ★積み重ねてきた書く力
- ★自分のよさを知る力

[教員]

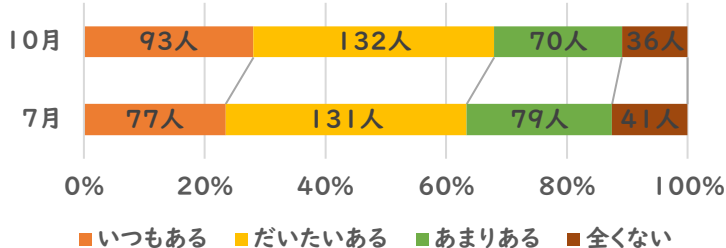
- ★各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる授業構成力
- ★何でも話せる学級風土づくり

実態調査

友達と話し合いをして、よかったと思うことはありますか。



友達の考えを聞いたり自分の考えを伝えたりして、次にか
したいと思うことはありますか。



○7月、10月に学習に対する意欲、学び合いに対する意識、受信・発信に関する実態など、10項目の質問を児童に行い調査した。

特に左記は、児童にとって友達と話し合うなどの経験を経て、「学び合いをしてよかった」と意義を感じているかどうかを知るための項目である。

○どちらの項目も7月に比べて10月の方が「いつもある」「だいたいある」という肯定的な回答が多くなった。これは、教育活動全体を通して、学び合いの活動を取り入れたことによるものだと考える。自分一人の学習だけではなく、相手と受信・発信を行い、「なるほど」「そういう考え方もあるのか」などの気付きや自分の考えの広がりなどを経験し、徐々に相手と学び合うよさを感じられるようになったことが分かる。今後も学び合いを積み重ねていくことにより、さらに学ぶ意欲が高まっていくと考える。

研究の視点

この3つの視点を用いて、学び合いを軸とした授業づくりを行っています。学び合う形態の工夫、ICTの活用も行い、児童が学び合いを行う環境を整えています。

柔軟な教育課程

カリキュラム・マネジメントを行い、児童の意欲に合わせて授業を行います。

学び合う形態の工夫

- ・ワールド・カフェ方式の活用
- ・ペア・トークの充実 など

学校図書との連携

読書ボランティア、司書と連携して、児童の学びに図書を活用します。

ICTの活用

- ・ICTを活用した意見交流など
(発表ノートなど)

地域教材の活用

本校ならではの地域教材を開発・活用することで児童の興味・関心を高めます。

常時活動

校長先生のお話カード

●ねらい

相手の話を集中して受信する力を養う。聞いたことから自分が考えたことをまとめて相手に発信する力を育む。

●方法

毎週月曜日、児童朝会後に行う。話の内容、その内容について自分が考えたことをワークシートに記入する。全員の記入が終わったら、ペアやグループで意見を交流する。友達の考えを聞いて、さらに考えを深めたことや、思ったこと、感じたことなどを記入する。

【成果】校長先生の話を中心して聞き、その後すぐに感想を書き、交流することで「他の人はどんなことを思ったのだろう。」と相手の考えに関心をもつとともに、自分の考えを深めることにつながっています。

今日のわくわくタイム

●ねらい

大勢の人の前で自信をもって自分の考えや思いなどを話せるようにする。話し手は、相手に伝わるように発信する力、聞き手は友達の話に関心をもって受信する力を育む。

●方法

毎日、日直が朝の会や帰りの会で自分のことについて話したり、クイズを出したりする。

【成果】児童は一人で話をする習慣が付き、「大勢の前で話すこと」が特別なことではないという気持ちになり、自信をもって話せるようになってきました。そのことが学習活動での発信への自信にもつながっています。



楽しくトークタイム

●ねらい

相手の話に関心をもって受信する力や相手に分かるように発信する力を育む。

自分と相手の共通点や相違点を考えながら聞いたり、友達のことを知って楽しんだりする姿を目指す。

●方法

毎週水曜日、朝の時間にテーマを決めてペアもしくはグループで交流する。各学年の実態に応じて、討論会を行う。5分間程度で、無理なく楽しく続ける。

【成果】友達と話をする中で、相手の新たな一面を発見し、互いに多様性を認め尊重し、自然と自分の話をしたくなる雰囲気ができました。受信したり発信したりすることのよさを感じられる児童が多く見られています。

授業の実際

低学年

【目指す児童像】
学習したことをもとに「もっと知りたい、学びたい」と探究する児童

国語 1年「おおきな かぶ」

●ねらい

- ・「おおきな かぶ」の学習を通して、グループで音読劇に取り組みながら、物語を自分たちで表現することを知る。
- ・外国のお話に興味関心をもって、色々な手法でお話を楽しみ、自分たちもその手法を使ってお話を伝えたいという思いをもつ。



【提案】読書活動における主体的な学びにつながる地域人材の活用を取り入れる。担任だけではない、全教員、ALT、司書、保護者を活用した多角的で幅広い読書活動を推進する。(手だて①読書環境の整備)

【児童の様子】日常的な取組として読み聞かせを継続し、ブックトークや様々な紹介方法を伝えてきたことで、児童は、「自分たちも色々な方法でお話を伝えたい」という思いが芽生えてきた。

【成果】様々な教員による日常的な読み聞かせから、多種多様な本に触れたことで、読み聞かせが好きな児童が増えた。また、活動の目的意識やゴールが明確になり、「この学習をやってみよう」と思えるきっかけとなった。

【課題】個人の考えをもつことはできたが、そこからの全体の場での交流の仕方を工夫する必要がある。

中学年

【目指す児童像】
自分の考えをもち、友達とのやりとりを楽しみながら学びをつなぐ児童

国語 4年「アップとルーズで伝える」

●ねらい

- ・段落相互の関係に着目しながら、考えと事例との関係などについて、叙述を基に捉える。

【提案】カリキュラム・マネジメントの一環で体育のダンスを発表するために、国語でスピーチの言葉を作った。
・スピーチコンテストという具体的な言語活動を最終ゴールとする。(手だて②ゴールを見据えた活動の工夫)

【児童の様子】体育科と国語科で連携したためあてをもつことにより、学習意欲を持続できた。学習課題に向き合い、課題を解決するために友達とのやりとりを進んで行っていた。
・最終ゴールに向かって、友達との学び合いを楽しみながら主体的に学習に取り組む様子が見られた。



【成果】友達との意見の交流が、ものの見方を広げるきっかけとなることが分かった。また、友達とやりとりをしながら意見をまとめる時間を楽しむようになった。

【課題】評価基準を明確にもつことが必要である。

授業の実際

高学年

【目指す児童像】
友達との関わりを通して、自分の考えを深めることに喜びを実感できる児童

社会 6年「わたしたちのくらしと日本国憲法」

●ねらい

- ・日本国憲法の三原則で自分が学びたい原則を一つ選び、深く調べていく。自分で選んで学びを進めていくこと及び、自分が選ばなかった原則を友達から聞くことで、主体的に学ぶ児童を育成する。



【提案】三原則から一つ、自分が興味のある原則を選び、深く調べる。調べたことを、別の原則を選んだ友達に伝えることで、学び合う必然性が生まれるようにする。(手だて③受信・発信の工夫)

【児童の様子】自分で選んだことにより、意欲的に調べる児童が多かった。別の原則を選んだ友達に伝える前に同じ原則を選んだ人と、互いの情報を確認し合うことで、自信をもって伝えている様子が見られた。また、調べていない原則について知ることができると、目的意識をもって相手の話を聞こうとしていた。

【成果】児童は、常時活動や各授業を通し、相手の考えを聞くと自分の学びが深まることを感じるようになった。学び合いを通して、自分の考えが変容するなど、学びが深まったという経験を重ねられた。

【課題】児童が間違いを恐れて発言が少なくなることがないよう、どんな内容の考えも大切であると、繰り返し伝えていくことが必要である。

算数少人数・専科

算数 3年「わり算のしかたを考えよう」

●ねらい

- ・除法の意味について理解し、除法計算の仕方を図や式を用いて考える力を養うとともに、除法の計算方法を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。

【提案】友達とのやりとりをより充実させるために継続的に言葉がけを行ったり、児童の授業感想を活用したりする。
・児童の考えや発言をつなぐための問い返しの工夫をする。(手だて③発言をつなぐ問い返し)

【児童の様子】友達の考えを参考にして自分の考えを広げたり、友達と学ぶと自分の考えが広がることを感じたりしている児童が見られた。
・意識的に児童の発言を問い返すことで、児童が考えをつなぎ、一つの考えを深めている様子が見られた。



【成果】継続的な言葉がけにより児童は何がよりよい結論になるかがよく分かるようになった。また、児童が友達の意見や感想を互いによく聞こうとするようになった。

【課題】やりとりを充実させるために、学習に支援の必要がある児童への支援をより具体的に考えることが必要である。

研究の成果と課題

成果・「友達と学び合ってよかった」「相手の話を聞いて自分の考えも深まった」という経験を積み重ねることで、一人では得られない学び合うよさを感じられるようになってきた。今後も学び合いの学習を継続することで、さらに学び合いのよさに気づき、積極的に学び合いをする児童を増やすことができると考える。

課題・正答を求めるあまり、自分の考えに自信をもてず、意見をはっきり言えない児童に対しては児童一人一人の状況に応じて丁寧に手だてを講じる必要がある。

おわりに

千代田区立和泉小学校 副校長 丸山 文生

令和元年度の研究では「夢と志をもち、自分の力で生き抜く児童～国語科における共働的な学びを通して～」を主題におき、8回の研究授業を行いました。「自ら課題を見つける力」「学びに向かう力」を研鑽し、単元導入において、言語活動を取り入れたことで、主体的に課題に取り組む児童が増え、対話的活動に前向きに取り組めるようになりました。

令和2年度では、元年度に身に付けた力をさらに発展的に育んでいこうと今年度の研究主題を決めました。日常の取組や授業で児童同士の意見の交流を促す発問を工夫したり、児童の考え方や発言をつなぐための問い返しの工夫をしたりと学び合いを基調として活動を行い、発信力・受信力を高め、相手と共に学ぶことの意義を知り、主体的に生きようとする気持ちを育んできました。

2年間の研究を通して、児童と共に教員も授業力向上に励み資質を高めてまいりました。今後も更に実践を積み重ね、教育活動の充実に向け、邁進してまいりたいと思います。末筆となりましたが、本校の研究を温かく支え、